

あまぽ

地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構

広報誌

2018年
春
vol.

37

ご自由にお持ち
ください。

特集

知っておきたいお産のこと

- 理事長あいさつ 地域の未来のために
- イベント たまごアートで遊ぼう
- 各病院等について 名称変更及び移管・統合のお知らせ
無料シャトルバスの運行を開始しました
- 診療科紹介 小児科
- 私の仕事 アドバンス助産師
- 病院からのお知らせ 医師異動
医学生の病院実習へのご協力とお願い
看護師等修学資金貸与制度のご案内



地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構

< 基本理念 >

- 1 安心、信頼、高度な医療提供
- 2 保健、医療、福祉の地域連携
- 3 地域に貢献する病院経営



小児科病棟のプレイルームにて。子どもたちに少しでもリラックスしてもらえるよう、明るい笑顔と思いやりの心を大切に、日々看護に励んでいます。



地域の未来のために

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
理事長 栗谷 義樹

去年は、当病院機構の取り組みがいろいろのところから問い合わせや講演依頼などがあり、また経営状態も良好に推移しましたので、6月には総務大臣表彰も頂くなど、全体として私たちの日頃の活動が広く注目された年だったように思います。

一方、一昨年から準備を進めてきた地域医療連携推進法人設立に向けた準備ですが、本年、1月9日に開催された地域医療連携推進法人「日本海ヘルスケアネット」設立協議会では、参加9法人が設立合意書を取り交わすところまで漕ぎ着けました。

地方はいま、過疎化、高齢化、少子化という三点セットに立ち向かうべく、全国で様々の取り組みが行われているところです。

私達も医療と言う仕事を通じて、介護、福祉など関連の方々と強い連帯を結びつつ、あまり明るくなくさそうな未来に向かって歩みを進めなければなりません。

他方、去年は、民主主義と市場経済という共通の価値観で結ばれたグローバリゼーションというものの限界が、世界中のあちこちで露呈した年でもありました。

民主主義の本家である米国でこのような現象が起きたことは、とりわけ象徴的な出来事だったと思います。

世界は今や混乱と不寛容に満ち溢れており、今後の展開も決して楽観できる状況にはありません。

私達の活動は、この世界的な経済活動や政治力学の影響をともに受ける、国内企業、金融、税制、為替相場、等々と、その結果として最終決定される政治選択、その下で続けなければならない仕組みの中にあります。

私達の活動を支える政策と社会保障財源がどのような状況にあるのか正確に理解し、その制約の中で最良のサービスを持続的に提供していくことが私達の使命です。

今後も全職員が一致団結し、地域のために最善の仕事が出来るよう、頑張りましょう。

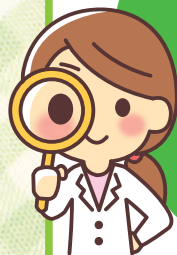
キーワードは「地域の未来のために～」です。本年もよろしくお願いいたします。

たまごアート

1月19日に、酒田市美術館主催のイベント「たまごアートで遊ぼう」が、日本海総合病院3階デイルームで開催されました。各病棟に入院中の患者さんが参加し、皆さん思い思いにたまごの殻に絵を描いたり色を塗ったりして楽しい時間を過ごしました。



お知らせ



平成30年4月1日以降に、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構が運営する各病院及び各診療所をお知らせします。

日本海総合病院

日本海総合病院は、地域の中核的な医療機関として、病気になり始めた時期の急性期の患者様に状態の早期安定化に向け、高度な医療を提供します。



日本海酒田リハビリテーション病院

(平成30年4月名称変更)

平成30年4月1日から、『日本海総合病院酒田医療センター』は、『日本海酒田リハビリテーション病院』に名称を変更します。

日本海酒田リハビリテーション病院は、急性期を経過した患者様に、在宅復帰に向けた医療やADL（日常生活動作の）向上を目的としたリハビリテーション、長期にわたる入院治療が必要な患者様に慢性期医療を提供します。



日本海八幡クリニック・升田診療所・青沢診療所・松山診療所・地見興屋診療所・飛島診療所

平成30年4月1日に酒田市が設置・運営していた市立八幡病院外5診療所が、当法人に移管・統合されます。なお、市立八幡病院は病床を廃止し、名称が『日本海八幡クリニック』に変わります。

日本海八幡クリニック、升田診療所、青沢診療所、松山診療所、地見興屋診療所及び飛島診療所は、日常的な病気やけが等の患者様に医療を提供します。



無料シャトルバスの運行を開始しました

平成30年1月から日本海総合病院と市立八幡病院（平成30年4月1日から「日本海八幡クリニック」）間の直通シャトルバスの運行を開始しました。

運行日

月曜日～金曜日
(ただし、祝日・12/29～1/3を除く。)

利用できる方

- 日本海総合病院を受診する患者さんや付添いの方
- 各病院に入院中又は入院する患者さんや付添いの方

運行時間

八幡病院 (出発)	日本海総合病院 (到着)	日本海総合病院 (出発)	八幡病院 (到着)
9:10	9:35	9:50	10:15
10:35	11:00	11:20	11:45
13:10	13:35	13:55	14:20
14:40	15:05	15:25	15:50

不明な点は下記担当までお問い合わせください。
(担当) 日本海総合病院 総務課施設係
TEL 0234-26-2001 (代表)





妊婦健診

妊娠の可能性のある方が、予定月経が遅れた、妊娠検査薬を使用して陽性反応が出た等の理由で産婦人科を受診された際、超音波検査で子宮内の胎嚢を確認することで妊娠の診断をします。異所性妊娠（子宮外妊娠）や子宮筋腫、卵巣腫瘍の有無なども確認します。その後2回ほどの通院で胎児発育を確認し、胎児の頭臀長を参考にして分娩予定日を算出します。分娩予定日が決まると自治体に妊娠届けを提出して母子健康手帳の交付を受け、いよいよ妊婦健診ということになります。母子健康手帳には通常14回分の補助券が付属しており、自治体からの補助で基本的には無料で健診が受けられるようになっています。

初回健診では血算、感染症（梅毒、B型・C型肝炎、風疹、HIV、トキソプラズマ）のチェック、血液型の確認、子宮がん検診が行われます。また、妊娠中期には血算、HtLV-1（ヒトT細胞性白血病ウイルス）、クラミジア、糖尿病スクリーニング検査、末期には血算、尿中B群溶連菌（新生児の致死性感染症の原因となる）検査が行われています。血圧、体重測定、尿検査（尿糖、尿蛋白）や超音波検査は毎回行っています。



知っておきたい お産のこと

超音波検査で我々産科医が何を見ているかというと、毎回行つのが胎児計測（児頭大横径、腹囲、大腿骨長による体重推定）による発育の評価と胎盤異常（前置胎盤などの位置異常や後血腫の有無等）、羊水量（染色体異常や胎児の状態で増減）のチェックです。

妊娠初期には頭部や骨格などの外表奇形、20〜24週で心奇形のスクリーニング、中期以降では尿路系の異常、口唇裂の有無や性別判定等を行います。発育遅延のある児に対しては、臍帯や中大脳脈の血流で児の状態を評価します。流早産のリスクのある場合は経膈超音波で子宮頸管長や内子宮口の開大の有無をチェックしています。

当院での妊婦健診では高性能の3D／4D超音波診断装置を2台使用しており、立体画像での胎児奇形スクリーニングも併用しています。また、希望者には3D／4Dを含めた動画をUSBに落として提供するサービスも行っています。

予定日が近い妊娠10ヶ月（36週）以降になると、胎児心拍モニターも行って子宮収縮の頻度と胎児の状態を評価します。胎児が元気であれば基線の細かい変動と、胎動時の一過性頻脈が見られますが、元気がなくなると細変動が消失し、徐脈が出現するようになります。

当院での分娩の特徴

当院ではフリースタイル分娩（アクティブベース）を取り入れています。通常イメージされる分娩様式は、テレビドラマの出産シーンでよく見られるように分娩台で砕石位をとっていきむといったものだと思います。フリー



診療部長(兼)産婦人科部長

井出 佳宏 医師

スタイル分娩は産婦さんが最も楽な姿勢で分娩するものであり、分娩台を台としてではなくベッドとして使用します。

当院では側臥位での分娩が多いですが、四つん這いや座位をとる場合もあります。

元々日本の分娩は、江戸時代までは産屋^{うぶや}という分娩専用の小屋（貴族などの上流階級では分娩専用の部屋）で座位で行われていました。ところが、1738年にフランスの宮廷医が開発した分娩台が明治時代になって日本にも導入され、分娩を管理する側が分娩介助や分娩後の医学的処置のしやすいことから全国に広がって行きました。確かに分娩台は介助者にとつては良いのですが、仰臥位^{ぎやうぶがい}という姿勢は産婦さんにとつては好ましい姿勢ではありません。それは子宮と腹部大血管との位置関係にあります。仰臥位では大きく重くなった子宮が血管を圧迫、特に下行大静脈が圧迫されて血流障害が起こり、心臓への血液還流が減って心拍出



量が低下します。その結果として子宮への血流も減少して胎児低酸素状態や子宮収縮力の低下を引き起こしてしまいます。仰臥位以外の体位ではこの圧迫はおきませんので、産む側に立てば、フリースタイルの方が良いと言うことになります。

ただし、これには例外もあって、吸引・鉗子^{かんし}分娩や骨盤位分娩などの特殊な医学的処置が必要な場合は分娩台で碎石位をとる必要があります。

当院には新生児科がないため、妊娠34週未満の分娩は原則として取り扱っていません。早産が予想される妊婦は新生児集中治療室（NICU）のある荘内病院や山形市内の病院に母体搬送しています。総合病院ですからハイリスク分娩も多く取り扱っています。可能な限り自然分娩を目指してはいて

も帝王切開せざるを得ない症例があり、年々増加傾向にあります。昨年は全分娩の14・4%、本年も14・2%（平成29年12月11日現在）が帝王切開でした。帝王切開の適応には母体因子と胎児因子があります。母体因子としては、重症妊娠高血圧症、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、既往帝王切開、子宮筋腫核出術既往、子宮頸部筋腫、狭骨盤（児頭骨盤不適合）、前期破水による胎内感染等があり、胎児因子には胎児低酸素症、子宮内胎児発育遅延、巨大児、胎位異常（骨盤位等）等があります。

院内助産システム

厚生労働省の「院内助産所・助産師外来施設整備事業」の元に、当院では院内助産システムも採用しています。

院内助産システムとは、病院や診療所において、保健師助産師看護師法で定められている業務範囲に則って、妊婦健康診査、分娩介助並びに保健指導（健康相談・教育）を助産師が主体的に行う仕組みです。

助産師が、医師との役割分担・連携のもと、「助産外来」、「院内助産」で個々のニーズに応じた助産ケアを提供し、特にローリスク妊産婦^{にんさんじょくふ}に対しては、妊婦健康診査、分娩介助並びに保健指導（健康相談・教育）を助産師が行います。

助産外来は正常経過の妊産婦の健康診査（妊婦健診）、保健指導を助産師が自立して行うもの、院内助産は、緊急時の対応ができる医療機関等において、正常経過の妊産婦の助産及び産後の母子のケアを助産師が自立して行う方法・体制と定義されています。

当院での院内助産は、まず妊娠36週までを医師が妊婦健診を行い、医師が正常経過と判断した妊婦で院内助産を希望される方を対象にしています。37週以降の妊婦健診を助産外来で行い、問題がなければ院内助産に移行。分娩

入院時も助産師が主体となつて（経過に異常がなければ基本的には医師は関与しない）分娩・産褥の管理を行います。しかし、正常と考えられていても経過中に何が起こるかわからないのが分娩です。突如として異常分娩へと変わってしまうこともあり、分娩室には顔は出しませんが、万一に備えて当番医師が院内に控えている体制をとっています。

院内助産システムの推進には産科医師不足・分娩施設の減少という背景があり、正常産を助産師が担うことで産科医師の負担を軽減する目的で採用する施設が多いのですが、当院では医師の負担軽減が目的ではなく、医師による適正な診断・治療と助産師の細やかな心配りなど、互いに足りない部分を補完してよりよいお産を目指すシステムとして採用しています。

院内助産は平成23年1月から日勤帯限定で開始し、平成29年11月からはフルタイムで行っています。





診療科紹介

小児科

診療部長(兼)小児科部長

田邊 さおり 医師

《小児科とは》

小児科は、赤ちゃんから大人になるまでを診療する科で、大人の内科と似ているところがあります。但し、罹りやすい病気の種類や頻度は大人とは、かなり違います。

小児科は、子どもたちが健やかに発育・発達して、健康な大人になれるよう手助けする科です。最近では、生まれる前から病気に気付かれることもあります(胎児診断・治療)。病気によっては、小児科だけでは治せず、外科や精神科など他の診療科との連携が必要になります。大人になるまでに治らないような慢性疾患では、成人領域の診療科への移行がスムーズに行えるよう支援します。

子どもたちの生活・将来を守るのは、私たち大人に課せられた義務と言えますが、小児科医は、小児の医療・保健を通じ、子どもたちの代弁者としての役割も担っており、子どもたちの生活の質と安全・安心のために活動します。

《当院小児科の特徴》

山形県庄内の基幹病院として、小児の感染症一般や、糖尿病、低身長、肥満、甲状腺疾患などの代謝・内分泌疾患、血液・腫瘍、ネフローゼ症候群などの腎疾患、川崎病、先天性心疾患、自己免疫疾患、気管支喘息、食物アレルギーなどのアレルギー疾患、てんかん、夜尿、新生児医療、等々に対する診断、治療を行っています。

また、遺伝疾患に関するカウンセリングや小児神経専門外来(月1回)を行っています(事前予約制)。

午前は、主に急性疾患や一般外来の診療を行います(11時までの受付 予約不要)。

午後は、主に予約外来を行います。乳幼児検診や学校検診で受診を勧められた場合は、予め小児科外来にご連絡をいただけますと、よりスムーズです。原則として慢性疾患(持病)をお持ちの方を対象に予防接種を実施しています。

先天性難聴や先天性心疾患の早期発見のため、新生児聴覚スクリーニングや経皮的動脈血酸素飽和度スクリーニングを行っています。

地区の小児科開業の先生方と月に1回カンファレンスを行い、病診連携に努めています。患者さんにもかかりつけ医を持つよう、お話ししています。庄内保健所と連携して、定期的に療育連絡会を実施し、基礎疾患を有する病児の療育にも携わっています。

救急外来では、地区の小児科開業医のご協力をいただきながら19時~22時の小児内科系疾患の夜間救急医療を行っています。不要不急の受診を控え、適正受診を心がけてくださいますようお願いいたします。なお日本小児科学会のホームページ・ウェブサイト「こどもの救急」(対象年齢生後1か月~6歳)や小児救急電話相談#8000もご

利用ください。

感染症に関連した最近の話題として「抗菌薬適正使用」が挙げられます。適正に感染症診断を行い、その感染症に対して抗菌薬が必要な場合は、適正な「抗菌薬」を選択し、適正な「量」で適正な「期間」治療を行うことが重要です。しかしながら、抗菌薬の不適正使用により、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国内外で大きな問題となっています。『なぜ』の原因の多くはウイルスであり、抗生物質・抗菌薬は効きません。分からないことは医師や薬剤師に確認し、適正使用にご協力をお願いします。

困ったときは...



ONLINE QQ こどもの救急
(対象年齢:生後1か月~6歳)

<http://kodomo-qq.jp/>

小児救急電話相談
(対象年齢:15歳未満)

#8000
実施時間(山形)19時~22時

私の仕事

紹介リレー

日本海総合病院 3階東病棟

アドバンス助産師

高橋 美樹



アドバンス助産師とは

助産師のキャリアパス／クリニカルラダーを全国的に標準化することで、各所で活躍する助産師それぞれが自信と誇りを持って役割を遂行できること、それによって助産ケアの質を保証することを目指しています。レベル新人・レベルⅠ・レベルⅡ・レベルⅢ・レベルⅣの段階をふみ学習や経験を重ね、レベルⅢを認証された助産師がアドバンス助産師と呼ばれます。

アドバンス助産師の認証要件

認証制度では、自律して院内助産が担当できる実践能力を認証することから、臨床実践症例と一定の研修受講の申請を要件としています。臨床実践とは、分娩助産・新生児の健康診査100例以上・妊娠期の健康診査・産褥期の健康診査200例以上、妊娠・出産・産褥を一貫して受け持ちをするプライマリケース20例以上をさし、新生児蘇生法の認定、指定された研修の受講が必要となります。さらに学術集会への参加が必須となっています。アドバンス助産師は5年毎の更新が必要であり、日々の病棟勤務以外に助産外来、院内助産、産婦人科外来勤務、研修会や学術集会に参加し日々自己研鑽をしています。



アドバンス助産師
認証マーク

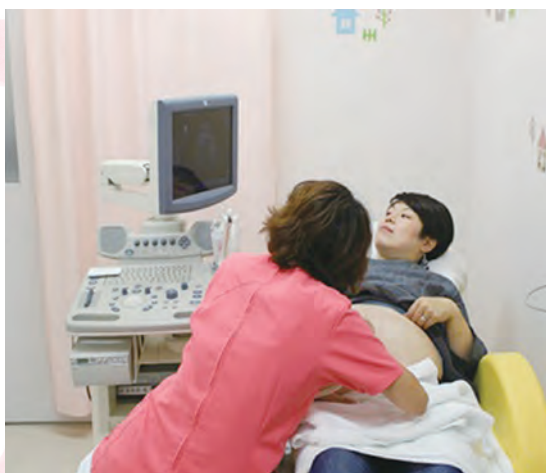
当院での活動内容・臨床での活動

私達は、助産外来や院内助産等において、専門的でより質の高い助産ケアを主体的に提供することが期待されています。また、医師との役割分担を行い、妊婦に寄り添ったケアを行い、アドバンス助産師の活動が社会や妊産婦と新生児、その家族や地域のニーズにこたえる役割を担っています。

助産外来は、妊娠36週以降のローリスクの妊婦さんを対象に、完全予約制で1人45分かけ妊婦健診や個別指導を行います。助産外来は待ち時間がなく、ゆつくり関わってもらえた、病棟助産師と早い時期から顔見知りになれ心強かった、色々話を聞いてもらえた、などの感想をいただいております。院内助産は、医師による医療介入を行わない、助産師が携わる自然な出産を希望される方が行う分娩方法です。医師の許可があり、助産外来での妊婦健診を受けているローリスクの妊婦さんが対象です。妊婦さんの出産時の希望や産後の希望などを取り入れたバースプランを基に、ご希望に沿ったケアを提供します。薬を使用したくない、会陰切開をしたくないなどの希望や、子どもや家族に立ち会ってもらいたい、フリースタイルで出産してみたい等の希望がある方が対象となります。最近では、夜間も対応できる環境を整備し、

妊婦さんのニーズに合った妊娠・出産を迎えられるよう努力しています。

平成29年からは産後ケア事業の一環として、酒田市と協力し、産後2か月までのお母様と御家族を対象に宿泊でのケアサポートを実施しており、私達3階東病棟のスタッフが産後ケアにも力を注ぎ活動を行っています。





病院からの

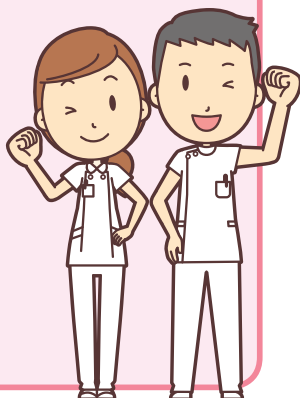
お知らせ



医学生の病院実習へのご協力とお願い

日本海総合病院では、医師として必要な実践的臨床能力を習得させることを目的として、東北大学及び山形大学の医学生が各診療科にて実習を行っています。

実習は当院の診療スタッフの指導・監督のもとで行っており、厳格な「守秘義務」を課しておりますので、何卒ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



●初期研修医（2年次）

中村 文洋

山形大学医学部
附属病院

転出

H29/12/31

新任地

日本海総合病院

医師異動の

お知らせ

看護師等修学資金貸与制度のご案内

◆対象者（次の4項目全てに該当する方）

- ①看護専門学校（大学）等に入学する方、又は在籍している方（平成26年4月1日以降入学者に限る）
 - ②卒業後に看護師・助産師として、当法人に就職を希望する方（※）
 - ③学業成績が優れ、かつ心身ともに健康である方
 - ④山形県看護職員修学資金を除き、当法人以外への就職を要件とする修学資金の貸与を受けていない方
- ※当法人での採用を約束するものではありません。

◆貸与額 月額 50,000円

◆貸与期間 在学する学校等の修業年限内

◆修学資金の返還・返還免除

貸与終了後、修学資金貸与期間に相当する期間内で、年利5%を付して返還をお願いしていますが、当法人に就職し、勤務期間が学校等の修業年限に相当する期間に達した時は、返還を全額免除します。

◆申込方法・申込期間

修学資金貸与申請書（当法人又は日本海総合病院のホームページからダウンロード可能です）に必要書類を添え、当法人に提出してください。

申込みは随時受け付けていますが、4月分からの貸与を希望する場合は、4月5日までに申請してください。同月末までに貸与の可否を通知します。

◆提出書類

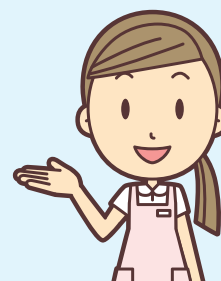
- ①修学資金貸与申請書
- ②学校などの長の推薦書（入学年度に申請する場合は不要です。）
- ③学業成績証明書（高等学校または高等専門学校以降全てのもの。）
- ④住民票謄本

◆その他

ホームページ内「修学資金貸与規程及び規則」・「修学資金貸与制度Q&A」もご覧ください。

◆申請書提出先・お問い合わせ

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
日本海総合病院
TEL 0234-26-2001（代）
総務課総務第2係 修学資金貸与担当まで



広報誌「あきほ」第37号

平成30年3月（季刊）発行部数：2,700部

編集発行 ● 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構
広報企画委員会広報誌担当（総務課総務第1係）
〒998-8501 山形県酒田市あきほ町30番地
TEL：0234-31-7126（直通）
FAX：0234-26-5114
URL：<http://www.nihonkai-hos.jp/>
E-mail：soumu@nihonkai-hos.jp

印刷 ● 株式会社光印刷



編集後記

今号の表紙には小児科はじめ各診療科の子どもたちが入院する3階西病棟の若手看護師が登場しました。入院している患児本人だけでなく、付き添うご家族の不安やストレスも軽減できるよう日々のケアに努めています。治療以外にも、長期入院のお子さんには勉強の時間を設けるなど生活リズムのサポートもしてくれそうです。

プレイルームでは保育士が笑顔で迎えてくれます。保育士が季節や行事ごとに病棟内をステキな掲示物で飾ってくれるので3階西病棟の廊下はいつも華やかです。（栄養管理室 高橋）